様式19−①

アレルギー症状（アナフィラキシー）緊急時対応プラン〔参考例〕

異変に気づく（発見者）

＜異常を示す症状＞
皮膚・粘膜症状：じんましん、かゆみ、目の充血
呼吸器症状：せき、ゼーゼー・ヒューヒュー、呼吸困難
消化器症状：吐き気、嘔吐、腹痛
アナフィラキシーショック：血圧低下、頻脈、意識障害・消失

症状の確認
アレルゲンが口に入った場合、口から出させ、口をすすがせる
皮膚に付いた・目に入った場合洗い流す

症状が軽い場合 →
内服薬を飲ませる
保健室又は安静にできる場所へ移動する

症状悪化 →

発見者「観察」：教職員等
① 子どもから離れず症状を観察（動かさない、寝かせる）
②助けを呼び、人を集める
（大声又は他の子どもに呼びに行かせる）
「〇〇さんのアレルギー症状が出たから△△先生呼んできて」
※養護教諭、担任、近いクラスの教職員等を呼ぶ
③駆け付けた教職員に「準備」「連絡」を依頼

※教室と職員室に、この役割プリントと記録用紙を置いておく。

教職員 A「準備」：近いクラスの教職員等
① マニュアルを持ってくる
② エピペン®、内服薬の準備
③ エピペン®の使用または介助
④ 心肺蘇生や AED の使用

教職員 B「準備」：近いクラスの教職員等
①AED の準備
②緊急時個別対応カード・管理指導表等の準備

管理職
①現場に到着次第、リーダーとなる
②それぞれの役割の確認および指示
③必要に応じて主治医等への相談
④救急車要請など各種判断

教職員 C「連絡」： 近いクラスの教職員等
①職員室・保健室にいる教職員・管理職に知らせる
②救急車を要請する（119 番通報）
③保護者への連絡
④さらに人を集める（校内放送等）

＜救急車要請の目安＞
・アナフィラキシーの兆候が見られる場合
・呼吸困難の疑いがある場合
・管理指導表で指示がある場合
・エピペン®を使用した場合
・主治医・学校医等または保護者から要請がある場合

教職員 D「記録」
①観察を開始した時刻を記録
②エピペン®を使用した時刻を記録
③内服薬を飲んだ時刻を記録
④５分ごとに症状を記録

教職員 E
他の子どもへの対応

教職員 F
救急車の誘導

教職員 G
エピペン®の使用または介助

＜エピペン®の使用について＞
・エピペン®注射のタイミングについては、「緊急時個別対応カード」を参照し、疑わしい症状が見られたときは、早めにエピペン®の処置を開始する
・エピペン®を注射するのは、基本的に本人。しかし、本人が注射できない状況にあるときは、教職員が本人に代わって注射する必要がある

救急車に引き継ぐ
管理指導表、緊急対応経過記録票および使用したエピペン®等を持参し、事情がわかる教職員が救急車に同乗する

全教職員・学校医・教育委員会等に報告し情報を共有する。今後の救急体制の整備に活用